

いざ、アリゾナへ

ロルフ・インスティテュートの教員向けに、セミナーの案内が届いた。講師の中に、ジェフリー・メイトランドの名前がある。NBAチームのスタッフとして、数々のスーパースターたちをロルフフィンギング®してきた実績に加え、長年ロルフ・インスティテュートの教授陣の中核にいるロルファーである。いつか彼から学びたいと思っていたが、残念なことに、現在はレギュラーなクラスは教えていない。その彼が、エネルギー的なアプローチをどう取り入れていくか、という魅力的な内容のクラスを聞くという。他に講師として、ソースポイント・セラピーというエネルギーワークを実践している2名のロルファーがエントリリーされている。場所は、アリゾナ州フェニックス。ジェフリーの活動拠点である。

セミナー前日 「触れないロルフフィンギング!」

せっかくなので、前日にジェフリーの個人セッションを受ける。
スコツツデルに位置する彼のオフィスには、彼の新刊が飾ってある。哲学の博士号を持ち、ロルファーになる以前で教鞭をとっていた彼は、禅を探究し、「法覚」という名前を授かっている。
セッションはまず、胸郭の膜組織への動きかけから始まる。タッチはきわめて優しい。左肩の不調を伝えると、パーカッサーという機器を用いて、振動を部位に当てる。機器を使うロルフフィンギングは初めてだが、確かに肩の動きがスムーズに感じる。

最後に、「何もしないワークをするけど、いいか?」と聞かれ、もちろんOKと答える。台に横になり、離れたところでジェフリーが

ロルファー、アメリカでさらなる境地に。

ロルフフィンギング追求記。

ロルファーの田畑さんのもとに誘惑の案内が。それはアリゾナ州フェニックスで開かれる、最新のセミナー。参加した田畑さん、どうやら仲間たちとロルフフィンギングの発展の変遷という、かけがえのない時間を共有したようです。

写真・文 ● 田畑浩良 Illustration by Yuri Mizutani

座ってただこちらを見守っている。しばらくすると私の身体が反応し始め、胸郭に息がぐぐぐと入ってくる。彼が知覚していることを聞き流していると、ある時点で気分が変わってくるのが感じられた。彼曰く、それがジョイの感覚だ、という。終始ただ見守られているだけだったが、私の胸郭は深いところから広がり、新しいジョイの感覚に満ちている。この「触れないワーク」が、紹介されると思うと明日からのセミナーに期待が高まる。

セミナー初日 「ロルフフィンギングを再定義!」

参加の半数以上が初対面だが、米国のロルフフィンギングクラスで、私のクライアントを教えただことがある先生がほとんどで、不思議な親近感を感じる。上級インストラクターのレイ・マッコールの進行によって、エネルギーワークをどのように実践の中で使っているかを一人一人シェアしたり、ジェフリーが提案する、エネルギーワークを盛り込んだロルフフィンギングの再定義についてもディスカッションが進む。英語のシャワーに頭はパンク寸前で発言まで至らず悶々とする。

午後は、実習もあって幾分楽だが、なにせ組む相手はそうそうたる先生ばかりで気は抜

けない。最初のペアは、恩師のスーザン・ピカード。自分の意識の向け方を変えることで、身体が圧力を感じたり、オープンになったりするのを体験する。続いて、ソースポイントを取り入れたレイのデモセッション。腕利きロルファーによって質の高い統合が引き出されることに驚きはないが、終わった後に、彼がフットと大きなため息をついていたのが印象的だった。34年のキャリアを持つレイでも、大御所ジェフリーや他の教員の前ではさすがに緊張することを知り、ちよつとほつとする。

セミナー2日目 「思わぬ展開」

朝から、ジェフリー独自のエネルギーワークのデモを興味深く観察。彼のたたくまいは



ジェフリー独自のエネルギーワークのデモ。数々のNBAのスターをロルフフィンギングしてきた。



すばらしい。起きてくることをただニュートラルに捉え、淡々としているが、どこか遊び心がある感じ。法覚和尚のワークはかなり翔んでるけれど、抵抗なく観ていられる。

彼のデモに做って手を触れずに行う実習はハワイの先生サリーと組む。お互いに実感で大きな変化を共有してゆったりと休憩時間を過ごしているとき、メアリー・ボンド女史が寄ってきて、「あなたのデモが見たいわ」という突然のリクエスト。「私は今日の夕方帰っちゃうから、今日がいいわね」とのさらなる追い打ちに、しばし言葉を失う。しかし、ここで発言もなく存在感を示すことなく帰国するもの情けない。せっかくのチャンスと気を取り直し、思い切って「OK」とメアリーに告げ、進行役のレイに交渉していく。すると予定されていたポップ・シュライの講義の前にあっさりねじ込んでもらうことに。

デモセッションの受け手に名乗りをあげてくれたのは、リクエストしてくれた本人のメアリー先生。見たいって言ったのに、受けることになってますけど、とつっこむ余裕は勿論ない。

まず、触れる前に、感覚を身体に集めてくる指向と周囲の空間に発散する指向の両方の感覚を持ちつつ、受け手の身体で起きていることを見守る。すると、受け手の身体に呼吸が入ってくる。後は、身体に呼吸に伴う振動が伝わりやすいように軽く触れて、見守る、を繰り返して、時折離れた位置からもワーク。周囲からもはつきり変化が分かる結果となつて、無事終了。

メアリーから、ロルフ博士のスピリットが海を越え、日本で



今回参加のベスニー（前列一番左）とメアリー（後列左から3番目）は、教員同士のカップル。この時婚約中で、もうすぐ結婚とのこと。スーザンは前列左から4番目。レイとポップは右からそれぞれ前列3番目と後列一番右。

※1 ロルフリング（正式名称Rolfing® Structural Integration）は、米国ロルフ・インスティテュートの登録商標。 ※2 ロルフ・インスティテュートの継続教育ワークショップとして認められ、これを採用するロルフラーもにわかには増えていくエネルギーワークの一つ。http://sourcepointtherapy.com ※3 東京での第二期ロルフリングトレーニングのクラスを教えたこともある日本でもお馴染みの先生。 ※4 1995年の最初のクラスの私の先生の一人。 ※5 恩師のキャロル先生が、メアリーにヒロのワークはすばらしいと噂してくれたらしい。 ※6 ソースポイントの共同創始者で、今回のセミナーのプレゼンターの一人。 ※7 『Heal Your Posture: A 7-Week Workshop with Mary Bond』 ※8 キャロル・アグネスセンスと共に発展させたイルドというワーク。

田畑 浩良

たはた・ひろよし ●ロルフラー。1963年栃木県生まれ。ラン藻を太陽電池として利用するという独創的研究で知られる島根大学落合英夫教授率いる生物化学研究室に学ぶ。1987年修士課程修了。林原生物化学研究所の研究員として勤務後、米国コロラド州ボルダーのロルフ・インスティテュートよりロルフラーとして認定され、以後ロルフリング・プラクティスを開始。2009年には同インスティテュートのムーブメント部門の教員となる。



花を咲かせている」というお言葉をもらった。ジェフリーは、「スウィート、スウィート」と何度も繰り返して、「このワークは、君が発展させたのか？ 次回、動画撮影していいかい？」と話しかけてくれた。メアリーからお礼に彼女のDVDをプレゼントされた。そして、討論中の私の黙った状態を見ていたからなのか、「ヒロ、アメリカにいるときは、黙ってちゃだめ、アメリカ人になりなさい！ そしてしやべりなさい！ みんなあなたに耳を傾けるから!!」と強烈なアドバイスをいただく。とにかく、自分のワークを教授陣の前でプレゼンしてお褒めをいただき、日本から来た甲斐があった。

最終3日目

朝は、ポップ・シュライによるソースポイントのデモに続いて、その恩師・キャロル先生と交換セッションの実習。この技法を自分が使うイメージはないが、ロルフ博士のエネルギーに対するコメントを引用してロルフリングとの関連をうまく説明している点や、手順がきっちりしていることなどが、導入しやす

4人のそれぞれの形のエネルギー的なアプローチ（触れない動きを含め）が、通常のロルフリングセッションと同様の効果があることを共有できた。さらにこの続きのセミナーを来年開くことを決めて閉会。

最後に

ロルフリングの基本の10回の型を習得する段階が、「守」、それを自分なりに発展させる「破」、そして、技法や型から離れ、自由自在の境地にあるのが、「離」だとするなら、ジェフリーは、まさにその「離」の境地にいる印象だった。創始者ロルフ博士の亡き後、ロルフリングのエッセンスを中心になって抽出し原則としてまとめた彼が、この技法をさらに進化させるためには、定義や教育にも変革が必要だと感じたに違いない。

しっかりと圧力を加えるタイプのワークはこれからも変わらず基本の型として残っていくだろう。新しい試みとしてのエネルギーワークの検討は始まったばかりである。いずれにしても、このタイミングで、同志と共にロルフリングの発展の変遷に立ち会い、関わる

